

2045年に建国100周年を迎えるインドネシアと新首都ヌサンタラ ジャカルタデスク 黄 武麟

1 はじめに

インドネシアは2045年に建国100周年を迎えますが、現在、新首都への移転を進めています。先日、インドネシア投資省 /BKPM 構想投資誘致プロジェクト主催の新首都見学会に参加しました。

写真とともに、インドネシアが目指す未来についてご紹介します。

2 新首都

新首都となる東カリマンタン州「ヌサンタラ」は、ジャカルタから約1,200kmの距離。当地へ向かう機内からはボルネオ島の熱帯雨林や広大な森林に囲



ヌサンタラの街並み

まれた自然豊かな地域が見えます。約2時間のフライトで、バリックパパン空港 (Balikpapan Airport) に到着。(なおバリックパパンは石油開発

で発展した、人口約80万人の街並みのきれいな都市です) その後、バスに揺られて3時間。現在工事中の高速道路が完成すれば、走行時間は90分に短縮されます。新首都至近のヌサンタラ空港も整備が完了しており、就航待ちの状況です。



Bendungan Sepaku Semoi ダム

ヌサンタラの地は、洪水が発生する地域なので、先行して治水工事も完成しています。(Bendungan Sepaku Semoi ダム)

3 政府機関の移転



大統領府「イスタナ・ガルーダ (ガルーダ宮殿)」

政府は2030年までに、全ての政府機関や行政機能を移転すると計画しています。

まずは建設中の大統領府を見学。政府の建物は曲線の美しさが印象的で、庭園や周辺工

リアもきめ細かく作り込まれていました。インドネシア政府は自然環境を保護しつつ、新首都の開発を進める方針で、そのバランスを取ることが重要な課題です。

ヌサンタラのインフラが整備され、政府機関や関連事業が移転していく過程で、都市開発やスマートシティ、環境技術など関連の企業が、ヌサンタラへの移転を考える可能性が高いと思われます。



クスマハンサ公園



インドネシア銀行

4 資金の調達

首都移転は非常に高額な費用を伴うプロジェクトであり、政府は様々な資金調達手段を検討しています。ここまでは大半が国家予算で進んでおり、今後は民間、国内、海外からの投資が発展のカギになります。

5 おわりに

建国100年を迎えるにあたり、政府は、「ゴールデンインドネシア2045」を掲げています。

① 先進国入り ② 貧困の撲滅 ③ 国際社会でのリーダーシップ ④ 人的資本の向上 ⑤ 環境問題への取り組み。これらの目標を達成するために、インドネシア政府はインフラ整備、製造業の振興、人材育成など、さまざまな政策を進めています。

首都移転後も、ジャカルタは経済・商業の中心として重要な役割を果たし続けると予想していますが、国内総生産の50%以上がジャワ島に偏っているインドネシアで、新首都を中心としたカリマンタン州 (ボルネオ島) の開発が発展の起爆剤になることを期待しています。

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界10カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。